

29年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 12月1日～ 29年12月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
入荷動向	スギ	6.3	18.8	12.5
	ヒノキ	14.3	△ 14.3	△ 14.3
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0
消費動向	スギ	12.5	18.8	12.5
	ヒノキ	7.1	0.0	0.0
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 50.0	△ 75.0
在庫動向	スギ	△ 18.8	6.3	6.3
	ヒノキ	7.1	△ 21.4	△ 21.4
	カラマツ	△ 100.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	25.0

・スギ製材用原木の入荷動向は3カ月連続増加。ヒノキは12月の増加から1月、2月は減少に。カラマツ、トドマツとも12月の減少から1月は横ばい、2月は増加に。

・スギの消費動向は3カ月連続増加。ヒノキ、カラマツとも12月の増加から1月、2月は横ばいに。トドマツは12月の横ばいから1月、2月は減少に。

・スギの在庫動向は12月の減少から1月、2月は増加に。ヒノキは12月の増加から1月、2月は減少に。カラマツは12月、1月の減少から2月は横ばいに。トドマツは12月、1月の減少から2月は増加に。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	29/12月	30/1月	2月
スギ	14.3	21.4	14.3
ヒノキ	8.3	0.0	0.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材用原木の価格動向は保合。

・ヒノキは横ばいなしやや弱含み。

・カラマツ、トドマツとも保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・トドマツは、11月までは原木在庫減少の一途。昨年夏の台風被害木の処理、木質バイオマス需要の増加などが主な要因。これにより間伐施業が遅れ、皆伐は更に遅れる悪循環となっている。12月まではパレット需要が多く推移。加えて輸入材価格の上昇や全国的な国産材工場の原木不足により、需要に対応できないと想定される。よって、スポット的な引き合いもあるが対応していない(北海道)。

・出材時期だが安定入荷は期待できない。原木在庫に合わせて生産・受注はやや旺盛。在庫は0.5カ月(北海道)。

・市場にスギ丸太が無い状況(関東)。

・製材量に変動はないが、少量ずつ仕入を積み増す予定。製材量は大きな変動なし。旬切り材なので、翌々月には在庫を確保できるよう仕入を進めていく(中部)。

・12月は順調、1月～2月は入荷が減る見込み。消費量は変わらず。在庫は1月～2月にかけて減る見込み(中国)。

・丸太の先行きは雪によって変化。今のところヒノキは順調に入荷。スギも柱適材以外は順調。入荷に応じて消費も変化。スギ、ヒノキとも在庫を増やそうとしてもできない状態(中国)。

・スギ、ヒノキとも製材工場の仕入意向が強く、落札できないことが多い。設備更新工事を行っており、3月までは消費が少ない。ヒノキ製材品不足のため、ヒノキ丸太の在庫は増やさない(中国)。

・ヒノキ丸太の入荷は順調。消費および在庫は1月、2月は稼働日が少なく、気候が不順となるためやや減少(九州)。

・スギ単価が高水準なため、天候さえ良好ならば多量の出材が見込めるのではないかと(九州)。

(原木価格)

- ・トドマツの不足感あり、国有林材値上り（北海道）。
- ・スギ、ヒノキとも価格の変動は多少あるが、ほぼ影響はないと思う（中部）。
- ・ヒノキの原木価格は12月横ばい、1～2月は下落の見込み（中国）。
- ・スギ、ヒノキとも横ばい（中国）。
- ・スギ、ヒノキとも丸太価格は上げ調子から横ばいに転じている（中国）。
- ・ヒノキ原木は天井価格まで来ているので、横ばいまたは少し下落することを望む（九州）。
- ・九州エリアは特にスギ3m材の不足が見られ、しばらく続くかもしれない（九州）

29年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
生産動向	スギ	5.6	12.5	12.5
	ヒノキ	0.0	△ 7.1	△ 7.1
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 50.0	△ 75.0
出荷動向	スギ	25.0	6.3	6.3
	ヒノキ	7.1	△ 7.1	0.0
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 50.0	△ 75.0
在庫動向	スギ	△ 28.6	△ 14.3	△ 7.1
	ヒノキ	△ 16.7	△ 8.3	△ 8.3
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	0.0	50.0

・スギ製材品の荷動き動向は3カ月連続増加。ヒノキは12月の横ばいから1月、2月は減少。カラマツは12月の増加から1月、2月は横ばいに。トドマツは12月の横ばいから1月、2月は減少に。

・スギの出荷動向3カ月連続増加。ヒノキは12月の増加から1月は減少、2月は横ばいに。カラマツは12月の増加から1月、2月は横ばいに。トドマツは12月の横ばいから1月、2月は減少に。

・スギ、ヒノキの在庫動向は3カ月連続減少。トドマツは12月、1月の横ばいから2月は増加に。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
スギ	柱角 KD10.5×3	25.0	12.5	6.3
	柱角 KD12×3	12.5	6.3	0.0
	通し柱 12×6	10.0	10.0	10.0
	桁角	8.3	8.3	8.3
	母屋角	14.3	7.1	7.1
	タルキ	8.3	8.3	8.3
	間柱	25.0	6.3	6.3
	ヌキ	7.1	7.1	7.1
	平割	8.3	8.3	8.3
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	28.6	7.1
柱角 KD12×3		16.7	8.3	8.3
土台角 10.5×4		28.6	7.1	7.1
土台角 12×4		21.4	7.1	7.1
通し柱 12×6		33.3	16.7	16.7
ラミナ		10.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	50.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	50.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は保合。

・ヒノキは全ての品目で保合。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも保合。トドマツサンギはやや強含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・冬期に入ったため丸太凍結で生産減少。既存客への安定販売に努める。出荷は生産を上回る受注であり、生産即出荷の状況（北海道）。
- ・新設備導入に伴い、一時的に生産工程に影響が出たため減少した。新工場が本格稼働したことから初めての冬ということもあり、製品の種類によっては影響が出始めている。製品の引き合いは好調。年末年始で駆け込みも多く12月の出荷は前月並で1月も好調見込み。またサイズによっての偏りも大きい。在庫は105mm系の柱、間柱の出荷が多く不足気味（東北）。
- ・稼働日並みの生産。年末（越年）在庫として引き合いあり。年明けも変わらず出荷は忙しいと見る。11月から出荷が多く、在庫は減少傾向（中部）。
- ・12月～2月のヒノキ製材品の生産は変わらず。1月～2月は出荷が減る見込み。在庫は12月やや減少、1月、2月は横ばい（中国）。
- ・設備更新工事のため生産、出荷とも減少（中国）。
- ・1月、2月は生産が少々減少する。出荷は順調にいくと思われる（九州）。
- ・まだまだ九州エリアはKD構造材の動きが強い（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギは値上げ要請中。数段階に分けて値上げも視野（北海道）。
- ・スギは柱の引き合いが強く、丸太価格も上がっているため単価調整を実施。長尺の柱、間柱に関しては通常より高値出荷調整。120mm系の3m柱、間柱は引き合いが弱い。タルキ、ヌキ、平割、桁角は苦戦が続いており、単価交渉を視野に入れ取引先を模索中。ヒノキは102mm角、120mm角とも調整。夏期頃から品薄状態。スギ集成材管柱は、時期的要因で取引先が増加したため強化を図る（東北）。
- ・スギ、ヒノキとも原木価格の変動は少なく上げたいが、市場に力が無く反応は薄い（中部）。
- ・ヒノキ製材品の出荷価格は12月まではやや上昇、1月、2月は横ばいと予想（中国）。
- ・スギ柱角KDは玉不足による値上がりが見られつつある。梁、桁は米マツ、EWとも昨年末より大幅に値を上げているので、そのうち上昇に転じる可能性あり。ヒノキも在庫が少ないものがジリジリ値上り傾向。特に105mm×4m土台は大手パワービルダー採用により品不足が更に進みそうだ（中国）。
- ・生産・出荷とも荷動きは105mm角を中心に順調。製品在庫は非常に少ないままの横ばい（中国）。
- ・スギ、ヒノキとも中間業者（流通）は価格の大幅な揺れを嫌っている様子。値段は安定化傾向（中国）。

ヒノキ価格は横ばい、5,000円/㎡程度の上昇を期待する（九州）

29年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
仕入動向	米マツ丸太	△ 100.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 100.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入動向は12月の減少から1月は横ばい、2月は増加に。NZラジアータは12月、1月の増加から2月は横ばいに。

・米マツ丸太の消費動向は12月の減少から1月は横ばい、2月は増加に。NZラジアータは12月、1月の増加から2月は横ばいに。

・米マツ、NZラジアータ在庫動向は3カ月横ばい推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/12月	30/1月	2月
米マツ丸太	100.0	50.0	0.0
NZラジアータ丸太	50.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格動向は、到着価格が上昇中で強含み。

・NZラジアータ丸太はFOB、FRTとも強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータ丸太は入荷、消費ともやや増加、在庫は横ばい。

(原木価格動向)

・為替は円安傾向、フレートは上昇傾向で米マツ丸太の現地価格は強含み、到着価格は上昇を続けている。年明けの現地需給、為替、フレートの状況により大きく変化する。

・NZラジアータ丸太はFOB、FRTともに上昇中。

29年12月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
生産動向	米マツ製材品	△ 100.0	0.0	50.0
	NZラジアータ製材品	50.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	△ 100.0	50.0
	NZラジアータ製材品	50.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	△ 100.0	100.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は12月の減少から1月は横ばい、2月は増加に。NZラジアータは製材品は12月、1月の増加から2月は横ばいに。

・米マツ製材品の出荷動向は12月、1月の減少から2月は増加に。NZラジアータは12月、1月の増加から2月は横ばいに。

・米マツ製材品の在庫動向は12月の減少から1月、2月は増加に。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
米マツ平角		50.0	0.0	0.0
米マツ正角		0.0	0.0	0.0
米マツ小割		50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		50.0	100.0	50.0
NZ梱包材(割角)		50.0	100.0	50.0
NZ土木用材		50.0	50.0	50.0
その他		—	—	—

・米マツ製材品の出荷価格動向は平角、正角、小割とも強保合。

・NZラジアータは梱包材(割板、割角)、土木用材とも来年1月からの値上げを予定しており強含み。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・ラジアータ製材品の注文は多い状況で、生産、出荷ともやや増加。

(製材品出荷価格動向)

- ・米松製材品は今後の需給次第だが、年明けの状況は明るくなく価格上昇余地は少ないように思える。
- ・ラジアータ製材品は1月から3,000円/m³値上げ中。